

訃 報

——謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

早川 福利 殿(応用理学部門)	平成 26 年 7 月 18 日逝去	77 歳
鹿島 弘融 殿(建設部門)	平成 26 年 8 月 12 日逝去	46 歳
石塚 雅章 殿(建設部門)	平成 26 年 9 月 5 日逝去	44 歳
丹波 齊 殿(応用理学部門)	平成 26 年 10 月 29 日逝去	81 歳
伊藤 純二 殿(建設部門)	平成 26 年 11 月 15 日逝去	73 歳
斎藤 昌之 殿(応用理学部門)	平成 26 年 11 月 26 日逝去	96 歳
増田 祐二 殿(建設部門)	平成 26 年 11 月 26 日逝去	56 歳
津田 義和 殿(建設部門)	平成 27 年 1 月 31 日逝去	79 歳
林 幸治 殿(建設部門)	平成 27 年 3 月 23 日逝去	62 歳
長内 戦治 殿(建設部門)	平成 27 年 4 月 24 日逝去	76 歳

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

◆先月号から始まりました新企画“私とオリンピック”。本号では札幌オリンピックつながりから札幌の地下鉄・地下街開業に関する話題の中で、「地下街開業当初から現在まで左側通行が基本」との記述がありました。確かに、歩行者天国でもお祭りの屋台通りでも自然と左側通行ですね。一説によると、昔の武士は刀を左側に差していて、すれ違いざまに何かあって身を守るために刀を抜きやすいからとか、左腰に差している刀の鞘同士がぶつかってしまうので喧嘩の種になるからといったいわゆる「侍ルール」が定着されたためだとか(ちなみに、左利きの人は全て右に矯正されたそうです)。ところが、日本の道路では歩行者は右側通行が原則だと知っていましたか？ 道路交通法第十条 1 では「歩行者は、歩道又は歩行者の通行に十分な幅員を有する路側帯(次項及び次条において「歩道等」という。)と車道の区別のない道路においては、道路の右側端に寄って通行しなければならない。ただし、道路の右側端を通行することが危険であるときその他やむを得ないときは、道路の左側端に寄って通行することができる。」とあります。歩行者の安全性を考慮して制定されたようですが、実際には、道路の左側を通行している例が多いように感じます。もしかすると、日本人の DNA に左側通行が感覚情報として刻まれているのかも知れません?? ◆また、本号にて“読者の声”が終了します。固定モニターについてのカミングアウトも衝撃的でしたが、欠かさず投稿していただいた[Y.K 血液 AB 型様]と「いつものおせっかい男 MS 様」のご尽力には頭が下がります。これで肩の荷も下りたことと思います。今までお疲れ様でした。◆その他、各種報告やプロジェクト X など読みどころ満載です。これから“楽しく、ためになる?”企画を検討していきたいと思いますので、末永くご愛読賜りますようお願い申し上げます。

(広報委員 阿部正明)